

S-KYT (消防団危険予知訓練) 研修を実施して

春日井市消防本部 消防総務課
消防担当 主任 楠 茂

1 はじめに

春日井市は、名古屋市の北東部に位置しています。市域の西側は濃尾平野からなり、古くからの商店街や工業地域が広がり、県営名古屋空港の一部もあります。一方、東部は丘陵地が広がっており、高蔵寺ニュータウンをはじめ大規模な団地、住宅地が開発され、名古屋市のベッドタウンとして発展してきました。また、愛知高原国定公園に指定されている豊かな自然環境が多く残っており、近年の登山、ハイキングブームもあって多くの人が自然を楽しんでいます。

文化的特色としては、平安時代に書道家として活躍した小野道風（おののとうふう）の誕生伝説地といわれており、「書のまち春日井」として書道に力を入れています。

また、全国シェアの8割を占める実生サボテンが特産物であり、「書のまち」とともに「サボテンのまち」として、全国に発信しています。

今年、平成25年6月1日には市制70周年の節目の年を迎えました。「つながり」～ひとや地域、文化をつなぎ、住み続けたいまちへ～をテーマに、更なる飛躍と発展を目指しています。

2 春日井市消防団の概要

春日井市消防団は、昭和33年に、現在の春日井市を形成する6町村合併の際、各町村にあった消防団をそのまま1分団として配置し、1消防団6分団、団員194名であらためて発足しました。以後、消防団車両の更新や団詰め所の建て替え等、消防力の強化を図ってきました。また、平成24年度からは、新たに団本部を設けるとともに、女性消防団員の募集をはじめ、火災予防啓発、救命講習等、女性ならではの活動が今後期待されているところです。

平成25年4月1日現在、団員定数127名、団本部及び6分団で構成され、可搬式ポンプ積載車7台を配備して災害に備えるとともに、火災予防啓発活動、警戒活動に日夜当たっています。

3 S-KYT 研修実施に至るまでの経緯

年間研修計画に基づいて、各分団で消防訓練や救急法を実施し、技術の向上と知識の習得に励んでいます。また、消防本部が企画する実務研修として、毎年5月に新入団員研修、10月に消防技術発表会、2月に体力練成会を実施してきました。

しかし、近年重要視されている自己の健康管理



春日井市のマスコット『書のまち春日井「道風くん」』

や安全管理についての教育が十分ではありませんでした。そのような状況の中、消防基金のパンフレットを目にし、平成23年度2月の実務研修で「健康セミナー」を実施することにしました。講師のかたの話に笑いが起きながら、団員に好評のうちに終えることができました。

引き続き平成24年度の研修においても、外部から講師を招いて現場での危険について話していただけたら、団員にとって充実した時間になると思います、「S-KYT 研修」を申し込みました。

4 S-KYT 研修を実施して

危険予知訓練は本来、短時間で身につくものではありませんが、こちらの都合上2時間半でカリキュラムを組んでいただきました。時間が足りないということで、最初の挨拶や講師の紹介もほどほどに、途中トイレ休憩を5分設ける程度で、休む暇なく研修が進められました。このような厳しいカリキュラムでしたが、講師のかたが消防OBということもあって、団員は研修にどんどん引き込まれていきました。



大きな声での唱和や指差し呼称、班ごとでの討議時間は、受講生みんなが積極的に実施していました。研修が終わり会場を後にする際も、「よし！」と指差し呼称をして帰っていく団員がいたり、研修後に団員が記入したアンケートには、「ためになった」、「今後も定期的実施してほしい」、「団員同士のまとまりができた」等、好評なものばかりで、安全管理や事故防止の重要性が伝わった研修であったと実感しました。

5 おわりに

今回の研修は、災害現場へ赴く消防団にとって、「災害現場には危険がいっぱいある」ということをあらためて気づく場になったのではないかと思います。

団員からは「災害現場だけでなく、日常生活でも使えそうだ」という声もありました。

これからも災害現場はもとより、訓練や日常生活でもけが、事故がなく充実した団活動ができる春日井市消防団を目指していきたいと思います。

